

## 平成20年 第2回定例会一般質問

○議長 横尾 武志君

6番、今井議員の一般質問を許します。今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

6番、今井です。財政計画についての質問をいたしたいと思います。

既に配付されてる資料の中にありますように、大型投資というのは10億円という枠を組んで芦屋町の財政を運営しているというふうに説明を受けておりますが、現在の10億円の進捗と今後の計画についてのご説明をお願いいたします。

これで第1回目の質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。企画課長。

○企画課長 鶴原 洋一君

では、お答えいたします。

私の方からは行革における大型事業の考え方等について説明をさせていただきたいと思っております。行革における大型事業につきましては、10カ年で10億円をこれに充てるということで、今行革は平成17年度を初年度としてこれまで改革を進めてまいりました。この大型事業における10億円は、17年度に目標として定めております。

したがって、事業初年度は17から26年度の10カ年、このようになります。次の18年度は17から27年度と1年ずれるということで、本年度につきましては20年度ですから、17年度から20年度の最終年度というのは、10年後は29年度ですから、17年から29年度の13年間というようなこういう仕組みにはなっておるわけでございます。この10億の考え方、あるいは方針は現在も変わってはおりませんが、この主な事業に係る一定の制限については、このようなこともございまして改めて検討する必要があるのではないかと、このように考えております。

さて、これらの大型事業に関することにつきましては、昨年も財政シミュレーションの中で示されておりますが、計画が具体化されていないなどのことで、金額が明らかになってないものがございます。このため、優先度の調整や今後当該大型事業に加えることになるものなどの検討が必要になります。大型事業につきましては、有利な補助金、有利な起債などにより、できるだけ一般財源を縮小して事業を進めていかなければなりません。

なお、今年度の行政改革の進捗などにつきましては当該大型事業を含めまして、19年度決算を踏まえた集中改革プランや財政計画を9月にはご提出することということで考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

答弁ありがとうございました。今の内容の中で一つだけ、10億円の枠を再検討すべきというご回答ですけれども、10億円の目標は変更されるということですか、お答えください。

○議長 横尾 武志君

企画課長。

○企画課長 鶴原 洋一君

お答えします。

基本的には10億円の考え方は変えるべきではないと、ただし、今申しましたように、じゃどこまで17年度を初年度とした10年間、この10年間で10億という考え方をどうするのかについては、もう一度見直す必要があるのではないかと考えています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

確かに変動予想はあるでしょうけれども、我々がいただいている、町民にも提出されてる平成19年度から28年度の財政シミュレーション、その19年9月28日に示されてる財政シミュレーション、ここでは明確に10億円を大型の事業の財源として、27年度末基金残高において6億5,000万の減少となっているがということを、きちんと10億の枠はこの10年間は守るべきだと思うんです。その後からの変動予想についてはやるべきでしょうけれども、あくまでも私がここで言いたいのは10年間、去年出した資料についての10億円は守って、10億円の範囲内でやらない限りは財政はがたがたになると思いますので、再度確認します。10年間は10億円を守るのか守らないのか、もう一度ご確認したいと思います。

○議長 横尾 武志君

企画課長。

○企画課長 鶴原 洋一君

その考え方は変わりません、守るということです。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

はい、わかりました。じゃ10億円は10年間は変えないという枠が確認できましたので、最初の基本の質問からまず聞きたい。いろんなランニングコストが行われてると思いますけど、それと違って大型、いわゆるここで言う大型事業の10億円という基準は金額で幾ら以上のものを作るのか、また、何かほかの枠があるのか、ちょっと基本的な質問ですけども、ひとつそこを。

○議長 横尾 武志君

企画課長。

○企画課長 鶴原 洋一君

具体的に何円以上というような形では決めておりません。

したがって、小さな金額のやつもあるのはあるわけですが、県との共同事業等、事業規模等も含めまして、大型という考え方をしています。

それから、昨年度、財政シミュレーションに出しました内容の中で14項目あったと承知しておりますが、その内容だということでご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

14項目の大型事業についての一覧については私も持っておりますので、内容を見て、いわゆる大型事業ということですから、金額の縛りか何かがあるのかと思ったんですが、金額の縛りもないということで、いわゆるランニングコスト、一般経費に入らないという考え方で進めてよろしいんですね。

それでは、2番目に、この14項目の中以外、いわゆる特別会計、今検討されてる多分病院の改造だと思います。こういうものの大きな病院の改造についてはこの大型事業には含まず、別個でやられるんですか、どうでしょうか。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

今議員がお示しされてる財政シミュレーションにつきましては、一般会計ということでございますので、企業会計等は入っておらないということでございます。

ただ、特別会計等につきましては、一般会計の繰り出し等が発生するというようなことがございますので、そういうものはこのシミュレーションの中には反映されてるということです。病院事業については大型投資の経費には入っておりません。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

一般会計の中だけど、いわゆる特別会計の建物の改造とか何か、大型については一般会計の繰り出しの部分は、じゃこの中にもう既に反映されてると考えてよろしいですね。反映されてるといことですね。はい。

じゃ次に、再確認します。この9月の28日の資料では10億円のうち大型事業14項目が今予測されておるが、既に6億5,400万は予定ないんですよと、残りは3億5,000万しか今後10年間ありませんよという資料だと思いますけれども、これで間違いないでしょうか。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

昨年の9月にお示しした内容では、一応そういう説明がされております。

ただ、その後、その当時の金額というのは事業ベースといいますか、事業規模等を勘案してつくったものでございますけども、実際に入札行為等ございます。

それから、予定しておりませんでした交付金といいますか、産炭地関係の分が新たに特定財源として入ってくるというような状況の変化がっております。そういうことからしまして、当初6億5,000万ほど使いますよという説明をしましたが、今現在で精査したところでは約4億9,700万の一般財源の持ち出しという数字が出ております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

6億5,400万でなくて4億9,000万、約1億5,000万減ったということですが、産炭地関係で使う費用等の近日の情報がわからなかったもので、それでは、今回、今議会に提出されております中で、庁舎改修に伴ってふえる分も含まれてるんですか、それは。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

今回補正で上げております庁舎周りの駐車場整備約7,000万弱ほどありますが、この分についても、先ほど言いました金額の中には含まれております。補正後の数字で申し上げます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

それでは、今回議会に提出されてる、いわゆる庁舎改修に伴う工事に対する増加分は含んでも4億9,700万からしか一般会計から持ち出しがないということが確認できました。

それでは、そのほか本議会に提出されております町民会館、公民館の設計費用が今回出されます。この設計費用は大型投資には入ってないとは思いますが、まずそこから確認します。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

昨年示した中には当然町民会館、中央公民館の設計費というのは入っておりません。考え方としましては、今回やろうとしているものにつきましては大型事業という認識はあります。ことしの9月に示す財政シミュレーションの中でその辺を反映させてご報告申し上げたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

既に昨年提示された中の4項目めと14項目めに中央公民館、町民会館の改修事業は反映されてはないけども、今後大型事業としてはやらなければいけない内容ですよという項目だけは上がってる。

それでは、今回この議案が提出されるに当たっては大型が4億9,700万と今回答ですけども、それから、社会教育で行われる町民会館、中央公民館の改修工事含めて、設計費を含めて、一般会計持ち出しがどのくらいになると予測されて、今回の議案の提出になったのか、経緯をご説明ください。

○議長 横尾 武志君

社会教育課長。

○社会教育課長 本田 幸代君

中央公民館改修工事におきましては、過疎債を借り入れます。そして、償還分は一般財源ということになりますので、それが約1億2,000万ございます。町民会館につきましても、過疎債を借り入れます。その償還分がおよそ6,000万弱の予定でございます。

○議長 横尾 武志君

社会教育課長。

○社会教育課長 本田 幸代君

財源の説明をもう少しさせていただきます。

中央公民館におきましては過疎債とまちづくり交付金、防衛の補助を受ける予定でございます。  
町民会館につきましても、まちづくり交付金を受ける予定でございます。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

そうすると本議会に入っておりますこの予測、今1億2,000万ということで6,000万という回答でしたから約1億8,000万、1億8,000万をこの4億9,000万に足しますと6億7,000万、6億7,000万が一般会計の今議会に対する内容が通れば、6億7,000万が一般会計からの持ち出しで、残りが3億3,000万の大型投資ということの確認でよろしいでしょうか。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

今社会教育課長が申しましたのは、一応全体的に出します一般財源の金額を申しました。

ただ、これについては過疎債の償還ということですが、この過疎債の償還につきましては年限がございます。

それで、9年償還なら9年かけて払いますよということになります。その辺の全体の数字でございます。先ほど来、今井議員言われますように27年度を一つの起点といいますか、そのときの基金残高のうちの半分、約10億を使いますよという考え方をすれば、今計画している大型事業で、27年度末までに使う一般財源というものは約5億7,400万を予定いたしております。  
以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

すみません。もう一度聞きます。この5億7,400万はもう一度どういうことですか、もう一度すみません、もう一度。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

要するに、起債の償還年限等の関係があります。それで、起債内容によっては、28年、29年、30年以降も償還があるということなんです。

ただ、27年度時点で締めた場合、要するに、当初、議会の方で説明しました10億の財源を大型投資に充てますよというところと言ったのは27年度でした。ですから、それまでに一般財源を支出するといいますか、償還等を含めた金額が5億7,400万ぐらいになる予定ですということなんです。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

はい、わかりました。それでは、今予定されてる中では5億7,400万という数字で、これについてはことしの8月ぐらいに再度シミュレーションをして出されるということがご説明もありました。過疎債の内容を再度、基本的な質問で申しわけないんですが、先日私が聞いたときに100%充当ですよという、設計の費用は100%充当、過疎債から出ますよ、いわゆる係る費用は全部過疎債で借りますよ、実際交付税で措置されるのはそのうちの70%だと思うんです。この30%を10年で我々が返していくから、その金額がこの大型財源の内訳の5億7,400万になると、ほかのものも足してという理解でよろしいですか、いいですね。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

どういう形の起債を借りるかにもよるんですけど、起債というのは、据置期間というものがございまして。今こちらの方で考えておりますのは3年据え置き9年償還ということでございます。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

それでは、5億7,000万、そうすると残り約4億3,000万、4億という数字で今日はお話をさせていただきたい。残り8年間ぐらい4億のお金で大型投資を賄っていかなければいけないという宿命にあるわけです。そのほかにも14項目、内容説明、資料を受けた中で14項目あるわけです。やってるのはそのうちの7つ、半分です。この辺については残りの4億で大型、どの辺まで片づけていけるか、また、新たに予測してないもので発生してるのではないかと思いますけど、その辺の新しく発生したもの、また、残りの7項目についてはどのようなお考えなのか、お聞かせ願えたらと。

○議長 横尾 武志君

企画課長。

○企画課長 鶴原 洋一君

当初申しましたように毎年計画は見直ししていつておるわけですが、その中で、改めて優先順位等をつけながらやっいてこうというふうを考えております。

なお、新たな課題と申しますか、その件については耐震改修に関する診断を行ってありますが、その中で数値が基準に満たしてないというのが数カ所、現にございます。これらが今後のいわゆる政策課題になってこようかというふうを考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

今課長の方から答弁でありましたように、確かにそれまではこの14項目で大型投資10億の中で賄えるかなというところがあったわけです。新たな課題というのは非常に大きな課題として今国でも、今検討されてます。新耐震ということで調査をされて、その後、新耐震に合わないものについてはどうするかというのは、当然各自治体に大きく付加されてくる、この辺の内容については今後芦屋町の大きな課題だと思います。そういう意味で、今回14項目の投資についての、枠についての質問をしているわけです。

それで、この金額で十分今検討を見直さなきゃいけないということも言われてましたけれども、極力この10年間はこの10億円で賄わないと、これ以外の費用というのもどんどん値上がりしてるし、コスト増となってるわけです。ことしの3月には退職金が払えないから、退職金を借り入れしてるわけです。このような財政状況下ですから、あくまでも10億を守るという姿勢で今後進めるべきだと私は考えるんです。

そこで、一般的な考え方ですけども、多くの日本の自治体は今まで国からの補助金でいろいろ箱物をたくさんつくってきました。それによって、現在、芦屋町を含めてもそうかもしれません。最初は補助金でつくるんですけども、その後の建物というのは補助金はつきません。ということから、夕張を筆頭にいろんなところが財政破綻、いわゆるそれほど建物の維持管理、ランニングコストも含めて非常に困難になってきて財政破綻しているんです。

今回のこの議案の中でも、また箱物である中央公民館、町民会館を庁舎に加えて新たに改修して、自治体独自でこの費用を賄って、確かに過疎債という有利な財源はあるということですけど、これは10年前、20年前、各自治体が日本でみんな失敗してきたことなんです。あえてここに踏み込まれる、世の中と逆行してると思うんですけど、この辺についてはどういうふうにお考えでしょうか。



○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

ちょっと今の質問が、ちょっと疑問を持つわけですが、新たにつくるということなんです、これは新たにつくっておるわけでもない。本来ですと、財政基盤がよければ、35年、40年、町民会館というのは建った当初、遠賀郡内でも非常に素晴らしいものであったというふうで近隣から言われておったんですが、依然としてああいう建物が少ないということであるわけですが、中央公民館にしてもしかりなんです。

いわゆる時代がよかったときと申しますか、そのときに住民のいわゆる文化環境というか、文化協会の方が文化会館を建ててくれという声が圧倒的に多かった。少し基金をずっとためておった。競艇の売り上げが悪くなって、これは文化会館の基金を取り崩さなければならないというようになった。今回本庁舎のいわゆるアスベスト工事に関連しまして中央公民館に使うと、町民会館に使うという形の中で、これが過疎債が来年で切れます。これはラストチャンス、芦屋町のいわゆる文化会館的な小ホールをつくるというのは、これはラストチャンスであるということで、関係各位に、いわゆる文化協会の関係者とヒアリングというか、協議をした結果、ぜひつくっていただきたい。

いわゆる可動式のいすをつくっていただきたいと、そういうふうなご要望、つくっていただきたいという強い要望がありましたので決断したわけであります。これで我慢していただきたいと、本来ですと前々から約束しておりました新しい文化会館を建てなくてはいけないんですが、補修という形で我慢していただきたいという形の中での町民会館の改修でございます。

それから、中央公民館につきましても、いわゆる住民の方のギャラリー、いわゆる趣味の延長というか、個人の方のギャラリーをつくってほしいという要望が以前から出ておりました。

それから、図書館も周りの4町に比べて非常に貧弱である。そして、2階でみんなが親しめるような図書館をつくっていただきたいという強い要望の中で、これも決してぜいたくなものではありません。水巻や遠賀町のように新しくつくったわけでも何でもないわけなんです。既存の建物を利用して、そして、結局過疎債という有利な起債を使って、最低限の町民のいわゆる要望にこたえておるわけでございます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

町長おっしゃられる内容については、私も確かに必要性、ニーズがあるということは十分私も

理解している。そういうことを私は言ってるのではなく、ちょっと言葉的に説明不足だったとしても、いろいろ建物というのは、あるものについては整理統合していく中でランニングコストを抑えていくという部分もあるんですね。確かに過疎債という有利なものがある。今までの世の中みんなそうです。国がこの補助金つけるから、これをやりなさい、これをやりなさいって、結局その維持管理、ランニングコストに影響してきてるわけです。

だから、一つの側面は、今私が言ってる大型投資という枠の中できちんと管理をしていくべきだと、これは今の回答の中で、大きな課題として新耐震はあるけども、6億、5億7,000万なりにとどまると言いながら、非常にまだ課題があるということは私も認識してますし、今後それについては私も議員の一員として明確な人数、それから、必要性については考えなきゃいけないと思っております。

ですから、余計に声を新たにしてここで言いたいのは、ある建物が、例えば、2つあるんだったら、それを一つにするというような考え方にもう既に立たないといけない時期じゃないでしょうかということをお伺いしたい。ニーズは十分わかりますよ。みんな必要ですということでしょう。図書館欲しいでしょう。例えば、大きく発想を転換して、図書館我慢してくださいよと、遠賀町にお金を出して、遠賀町の図書館を共同利用するようにしましょうよ、そして、コストを削減しましょうよというような新たな発想の方が今の町民には受けるんじゃないかと思えますけれども、どうですか。

**○町長 波多野茂丸君**

それぞれのお考えだと思うんですが、議員ご存じのように芦屋町、隣の町から少し離れておりまして、そこに行くまでも、今高齢化になりまして、身近に手の届くところに施設が欲しいというのが住民の要望であります。若い人が車を使って、いわゆるサンリーアイ、それから、遠賀の図書館、水巻の図書館、水巻のプールだとか、隣近所いい施設があるんですが、車持って移動できる方はいいでしょうけど、なかなかこういう時代になりますと、ぜいたくなものはできないんですけど、そこそこのリニューアルで我慢していただきたいということで、これも住民の要望でございますので、ご理解いただきたいと思えます。

**○議長 横尾 武志君**

今井議員。

**○議員 6番 今井 保利君**

いずれにしても、今日の今まで話してる大型投資については十分枠を守ってやらないと、一つ間違うと今出てますようにランニングコストの段階で非常に大変なことになる。財政計画の中で今言ってるランニングコスト、新しく町民会館、公民館、改造していく。ちょっとまだ資料を詳しくは見てませんが、エレベーター、それから、山鹿の公民館等では空調をつけるとかい

うことで、いろんなところでやっておられますけど、当然今お話が出てますようにランニングコスト的には非常に上がってくるんですね。これは、現在、非常に厳しい芦屋町の財政の中でどのようにしてランニングコストを吸収できると判断されて、今回の議案につながったんでしょうか、ランニングコストの方の見方からご説明をお願いいたします。

○議長 横尾 武志君

財政課長。

○財政課長 鶴原 光芳君

今言われるように確かに施設等を維持していくのであれば、その辺のランニングコストかかると思います。今財政の方といたしまして考えてるのは、シミュレーションで示しておりますように科目的には物件費あたりに当たるのかなというふうに思いますが、予算査定の中で全体枠を設けて、その中で調整を図っていきたいというふうには考えております。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

私は逆の考え方をしてるんですね。この議案を上げるときにはランニングコスト、このぐらい上昇するってわかってて、これだと我々の一般会計うまく回るよという判断があったから、この議案に出してると思うんですよ。今後調整するという判断はちょっと腑に落ちないんですけど、経費が幾ら上昇するかわからずに議案出されたという判断でよろしいですね。

○議長 横尾 武志君

社会教育課長。

○社会教育課長 本田 幸代君

経費の追加については、企画、財政とも打ち合わせをやってる中で進めさせてもらってます。町民会館につきましては可動いすの保守委託とエレベーターの保守委託、これ2つ合わせまして115万程度と見ております。中央公民館の改修につきましては、図書館にエレベーターがつくということで、保守委託は46万ぐらい追加になります。また図書館の運営経費につきましては、図書購入費、職員の体制等が予算的にかかわってくると思います。これにつきましては今後実施計画の中で、詰めていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

今井議員。

○議員 6番 今井 保利君

ランニングコストというものも現在、ご存じのようにオイル、石油が相当上がってる。ランニ

ングコストというのはどんどん上がっていきましますし、ほかのランニングコストについても、当然見直しをして、健全な財政を進めるんだと思いますので、今社会教育の課長からご説明がありましたけども、極力予測の範囲内で傾向ですから、正しい数値、どのくらい上がっていくのかというのは議会で提案をしていただかないと、今回この議会で我々これをやるかやらないかの判断材料の一つと、大きなバックになってきます。ぜひこういうものの何かの改造、ランニングコストが上がるということであれば、事前に我々に明示するでしょうし、当然それを決裁する責任者及び提案する人たちは、その費用というのはきちんと提出をして、そして、決裁をして議案に上げてくるということを望みます。

それじゃ最後に、財政計画の大型についての10億ということが大きなポイントということで私今日聞きましたけど、そのほか財政計画の中で大きなポイント、どこを管理していくのが一番重要なのか、例えば、私が思うのは、27年の基金残高15億4,500万という数字は、これは完全にターニングポイントで重要だと思います。そのほか何か重要なものがあれば、ご説明をお願いします。

**○議長 横尾 武志君**

財政課長。

**○財政課長 鶴原 光芳君**

答えになるかどうかわかりませんが、要するに、27年度で昨年示したのが約15億ぐらいの基金を残しますよということで、これをいかに費やしていくかということがまず1点大事だと思います。そのためにいかに一般財源を極力少なく出していくか、有利な補助金なり、起債なりを活用していくというのがまず1点。

それと、ここで一つ大きなのは、芦屋町の財政は競艇の売り上げに大変左右されるということだろうというふうに思っております。このシミュレーションでも示しておりますように25年度から4億とか4億5,000万とかいうような繰入金がありますよということでシミュレーションが成り立って、そして、27年度で15億ですよという数字を出しております。

ですから、ボートの売り上げ、その辺をずっと注視していきたいと思えます。以上です。

**○議員 6番 今井 保利君**

最後といいましたけど、今の注文ということで、おかしいですけど、私のまとめとして、10億円の大型投資をきちんと管理して、目標を枠の中に収めていくということが、財政の大きな芦屋町の課題ということがひとつ出てきて、その後、基金の残高27年度は15億4,000万という数字が出てきてます。これもきちんと管理していかなきゃいけない。むしろ今課長のご回答にありましたようにふやしていく努力をしていく。

ただ、懸案はボートの会計がどうなるのかなというのが一つ大きくありますよと、同時に最初

に説明がありました新耐震の問題に関する今後の建設費がどうなるのかというのが大きくあると  
いうことでよろしいですね。

それじゃこれで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長 横尾 武志君

以上で今井議員の一般質問は終わりました。